

分類/3.3.0.2-1-2



902

昭和十三年七月

大谷尊由氏の「滿洲移民事業の全貌」及び
大村滿鐵副總裁の「滿洲・北支開發」に就て

74

中央滿蒙協會
日本外交協會

昭和十三年七月
大谷尊由氏
大村滿鐵副總裁

S 1.3.3.0-1 6154 903 0489

902

お断り

此の兩篇は本協會有志會席上に於て、速記禁止の下に説述せられたるものにて、當協會幹事の手記したるものなり。此の謄写は兩氏の同意査閱を得たるものにあらざ、調査局資料として其の要旨を記録したるものを、急の爲め若干部を限り複写したるものなるを以て、取扱上特に御注意相成度し。

昭和十三年七月

中央滿蒙協會

S 133.0-1

6155 904

0490

滿洲移民事業の全貌目次

一	二十ヶ年百万戸入植計画	一
二	耕地一千万町歩	三
三	移民への補助	五
四	七回に亘る入植実績	五
五	入植の順序	一
六	移民地の文化施設	四
七	共同産業施設	一
八	土地買収の合理性	六
九	青少年移民	八
一〇	移民地と治安	二
一一	日滿農民は相互依存	〇
一二	朝鮮人移民の處置に就て	五

S 1.3.3.0-1 6156 905 0491

移民計画への示唆

「滿鐵の滿洲及北支開發の使命」目次

一	大滿鐵、その精神的結合	一
二	軍用鐵道の經濟化	三
三	國鐵に對する私設電車	四
四	對滿支事業一元化へ	六
五	大陸運輸と海上輸送の統合	八
六	青少年養成の試み	九

S 1.3.3.0-1 906 6157

内閣参議(前拓務大臣)大谷尊由氏の所述を基礎
としたる満洲移民事業の全貌に関する調査

(協會幹事手記)

一 二十ヶ年、百万戸入植計画

本年五月三十日、東京を出發して、拓務省が計画進行中の満洲に對する日本人移殖の實狀を視察したが、(幹事曰く、大谷氏拓相在任當時なり)、現地で親しく移民の狀況を目撃した結果、自分の移民問題に對する將來への考方もはつきり出來たかと思はれる。先づ沿革的の考へて見ると、満洲國への移民を計画實施したのは昭和七年からであつた。それから八年、九年、十年と、この四年の間は所謂試験移民時代であつて、其の間に約千七百戸の移殖をした。

ここで試験移民の經過を敘して、是非満洲移民の國策を本格的に決定するの必要に迫られなければならない。

大雑把に見積つても、満洲國の人口といふものは、今後二十年にして五千万人にはなる。而してこの五千万人の満洲國の健全なる發展育成を期するには、どうしても大和民族が其の中心とならねばならぬが、其の中心となる大和民族は少くとも總人口の一割位を占めなければ意味がない。即ち五百万人を移殖するの要はここから出發した。總人口の一割の日本人を満洲國に入れて置けば、充分指導も出来るし、又國防上からも日本人が心棒となるから安心といふわけ。そこで一昨年十月、所謂二十年間百万戸入植の國策が決定した次第である。

或は五百万人を入植するなら、無理に農民ばかりと限定せず、職工でも労働者でもサラリーマンでもよいではないかとの説をなすものもあるが、しかし移民といふものは大地にしつかりと足を付け、土

S 1.3.3.0-1 908 6159

S 1.3.3.0-1 6158 907 0492

に親しむものでなければ浮動していけない。これはどうしても土地に定着する農民に如かずといひわけで、農業移民といふことに決定したのである。

二、耕地一千万町歩

二十年百万戸移民決定と同時に昭和十二年度以降の五ヶ年を以て第一期計画とした。この第一期五ヶ年には集團移民と自由移民とを合して十万户を入れる見込である。かゝる問題となるのは、百万戸移民を計画しても、之れに與へる耕地があるかどうかといふことである。

拓務省の計画では、一戸當りの耕地は十町歩づつとし、之れに若干の放牧地及び薪炭用の山林を合せ與へやうといひのだから、農耕地をけでも一千万町歩、之れに放牧地、山林等も略ぼ同様の面積が必

要となる。之れに對して滿洲國は何程の土地を提供し得るかといふに、同國政府の調査に依れば、滿洲國で提供し得る耕地は千六百九十万町歩あるが其のうち可耕地即ち農耕地をり得るものが九百三十万町歩をいひこゝで大体日本側の要求する数字に近いわけのものがあるといひ見込がついた。之れに昭和九年滿洲拓植公社の所有となつた土地が百万町歩あるから、之を合せる一千万町歩はある、といひ見當がついたわけである。

用地は三江省、瀋江省、吉林省の若干、興安省、黑龍省の一部である。興安省東部地帯は相當廣いけれど、ソコ地帯であつて農耕には不適當であるし、黑龍省の北部と興安北省は土地はあるが、何分にも一年のうち太陽の照る日と、霜の降らない日を合せて百日に足らないといひ。然るに農耕にはとうしても百三十日乃至百十日を要するので之れが其の理由で農耕不適地といふことになり、従つて其の他の土地で耕地を求めることになつた次第である。

S 1.3.3.0-1 910 6161

S 1.3.3.0-1 6160-909

0493

三、移民への補助

移住者に對する政府の補助といふものは、集團移民に對しては一戸當り千円宛、自由移民には一戸當り二百円乃至五百円を補助するといふことになつてゐる。この外滿洲國の方でも、治安とか、通信とか、農政等について行政上の補助をするし、移民の輸送とか訓練とかやうなことは移住協會が其の任に當つてゐる。それから滿拓公社なる法人が新京に出來てゐて、これが移民地の施設とか、土地の買収とか、其の他必要の低利資金の貸付をする。滿拓公社は資本金五千万円で十倍の社債發行を認められてゐる。

四、七回に亘る入植實情

滿洲移民入植は昭和七年第一次から本年度まで七回に亘つて居る

五

か、第一次及び第二次は所謂武装移民で、第三次から治安状態の緩和から逐次平和裡に集團的に入植せしむる方法をとつた。即ち第一次乃至第七次集團移民の入植状況は大體次の通りである。

一、第一次。彌栄村 (團長 山崎芳雄)

此の第一次計画は試験移民として世上注目の的となつたものであるが、入植地は三江省樺川縣永豊鎮で、當時匪賊に對する不安も決して少くなかつた關係から、全員武装の下に移住したのが、昭和七年十月、入植戸数四百九十三であつた。其の後、戦死者十四病死者八、退團者百六十四、補充者二十九で現在戸数は三百三十大。更に妻子の呼寄せや現地出生等によつて總人口千三百六十六名(昨春)になつてゐる。

二、第二次。千振郷 (團長 宗 光彦)

昭和八年七月入植。第一次同様所謂武装移民であるが、入植地は三江省依蘭縣湖南営で、最初の團員は四百九十四戸であつた。し

S 1.3.3.0-1

6163

912

S 1.3.3.0-1

6162

911

0494

かし其後戦死者十五、病死十、退團者百六十一、補充者十三で戸数は三百二十一となり、家族の呼寄せ、現地出生等を合すれば総人口は九百十四名となつてゐる。

第一次及び第二次集團移民は試験移民であつたので、團員の選擇なり、訓練其他に於ても不充分のものがあつたために、相當数の退團者を出したり、治安關係から匪賊の襲撃に會つて戦死者を出したりしたので、異動の率も大さかつたけれども、しかしこの二回の移民によつて、滿洲移民の實驗を完成するに至つたから、爾後は頗る順調に計画を進めることが出来、次いで五百万移民計画を決定するの基礎を固め得たのである。

今日に至つては第一次の彌蒙村と第二次の千振郷とは移民地としては完全せるものであつて、現地に親しく之れを観ると移民問題の將來に力強さを感じる位である。

第三次、綏陵移住地（團長 林 恭平）

913

S 1.3.3.0-1 6164

0495

第三次は昭和九年十月の入植で、この回は入植地の方角をかねて濱江省綏遠縣北大溝とした。前二回ほどの治安上の不安も少く、戸数は百九十八戸のうち、戦死者八人、病死者四名、退團者五十七で、現在は二百三十七戸、總人口六百五名となつてゐる。

第四次移住地（團長「城子河」佐藤修「哈達河」貝沼洋二）

此の次入植地は牡丹江省密山縣方面に選び、城子河係に三百十戸、哈達河係に百九十九戸、入植期は昭和十年六月である。其の後の異動は極めて少く退團者も兩地を合せて十七名、現在戸数は城子河が二百九十七戸、五百十一人、哈達河は百八十四戸、三百九人である。

第五次、昭和十一年六月入植。

此の次は牡丹江省密山縣鍋盔鎮保、及び三家燒鍋保の兩地方に、永安屯（團長木村直雄）二百九十八戸、朝陽屯（團長矢口道愛）二百七十八戸、黒台（團長安東壽市）二百十二戸、侍渡村（團長

S 1.3.3.0-1 914 6165

青木虎若）二百十二戸、それ／＼分割入植せしめたものである。
 第六次、昭和十二年六月入植。
 此の頃からは百万戸移民の第一、次五ヶ年計画に入つたわけである。
 から、比較的大規模の方法を講じ、入植地も虎林線沿線、三江省
 湯源縣及び濱北線沿線に分植せしめた。即ち大體次の如くである。
 （左は第四次、第五次及び第六次の入植期日は何れも先遣隊の入
 植年月を示すもので本隊の入植は其の翌年三月である）

虎林線沿線	黒咀子	東三道崗福岡村	西三道崗	六人班第一廣島村	北五道崗山形郡	南五道崗信濃村
(團長 北川政雄)	(團長 内藤 誠)	(團長 田中常雄)	(團長 藤本俊幹)	(團長 熊谷伊三郎)	(團長 熊谷伊三郎)	(團長 平澤千秋)
入植戸数	五十七戸	四十三戸	五十六戸	四十一戸	五十九戸	六十七戸

S 1.3.3.0-1 6166 915 0496

龍 爪
 湯源縣

第一区熊本村	第二区宮城村	第三区福島村	第四区茨城村	第五区静岡村	第六区東北村	第七区東海村	濱北線沿線	綏安縣黑馬劉	海倫縣海 倫	通北縣五福堂	老衙基琦王村
(團長 中村秀市)	(團長 高村勝三)	(團長 佐藤民四郎)	(團長 石川勝藏)	(團長 得能数三)	(團長 佐藤 昇)	(團長 廣部永三郎)	(團長 平田秀彦)	(團長 石田伊十郎)	(團長 堀 忠雄)	(團長 出井菊太郎)	(團長 出井菊太郎)
五十六戸	六十戸	四十九戸	四十八戸	四十一戸	四十四戸	五十七戸	三十六戸	四十三戸	四十戸	四十一戸	四十一戸

S 1.3.3.0-1 6167 916

總計

九百〇八戸

一第七次 本年入植計画のもの
以上は集團移民であるが、現在まで入植したものは四十九集團七千四百七戸、總人口一万五千四百九十九人となつてゐる、この外自由移民の方は集團移民の縁故者などを除いて四十八集團四千四百四十四戸、三千五百四十五人である。自由移民の方は間島省、牡丹江省、三江省、瀋江省、吉林省等各地に分散してゐるが、政府としては是等自由移民に對しても出来るだけ奨励の途を考究してゐる次第である。

五 入植の順序

移民がどんな順序で入植するかといふは、まづ全員の二割位が豫め訓練所に於て必要の訓練をうけ、先遣隊となつて先づ入植する。彼等は村役場を造つたり、畜産場や倉庫や加工場をつくり、建築用

S 1.3.3.0-1 6168 917 0497

材を伐採したり、その他入植に必要な諸準備をする、その上で翌年三月頃には本隊を迎へる。本隊が入ると移民全体の共同經營を約一ヶ年ほどやつて、それ「」の手續かついたところ、大体三十戸内外の部落に分れて部落の共同經營に移る。部落經營の三、四年間もすれば、その上で各個人に十町歩位に分割して逐次個人經營を許し、始めて農業移民として自由を享受することとなるのである、既に第一次、第二次、第三次移民は個人經營となつてゐるし、第四次移民も本年は個人經營となる見込である。

個人經營の農耕地所有面積は一人當り四町七反乃至八町二反の割であるが、八町二反を所有して居るものは故郷から両親や弟妹を呼び寄せてやつてゐるし、四町七反位を持つものは新妻を迎へて夫婦共稼ぎといふ實情である。假りに四町七反の最小耕地を持つてゐるものでも、之れを内地の農業と比較したら非常に大きなもので、福島縣では一戸當り八反余、山形縣では一町歩程度で、關西方面へ行つ

S 1.3.3.0-1 918 6169

たりまだ狭い所もある。だから満洲移民は相當な大農式耕作をやつてゐて、トラクターを利用したり、新しい耕作方法に依つてゐるのである。

農作物の種類も決して少ない、玉葱と落花生とか土地に向かないといふだけで其の他は内地で出来るものはなんでも出来る。主作物は大豆と小麦であつて成績は頗る良好であるから、更に改良を施せば上等品の生産に苦心はいらぬと思ふ。玉蜀黍、大麦、粟、燕麥、蔬菜類もなかくよく出来る、特に蔬菜類の栽培については、軍隊に需要される關係から大いに奨励してゐる。

家畜類も、牛、馬、山羊、豚、鶏、蜜蜂等を飼養せしめてゐるが、満洲に牛が多いと思つたのは誤りで余り牛が居らぬやうだ、それには馬が非常に少い。だから満洲で馬の供給を充分ならしむる目的で馬の飼養には特に力を入れしめ、陸軍省と拓務省とか相談して將來馬の補充計画を満洲で立てるやうに方針を立ててゐる。實際に満洲農民

にあつては一戸當りの馬の数は二乃至三頭の割合をし、牛に至つては一戸當り僅かに一頭乃至二頭の割合に過ぎない。

山羊の飼育といふことも重大な事柄であるが、日本移民は概して羊の飼育が下手のやうだ。殊に之れを農耕の副業とするなどは少しく無理のやうである。さういふわけで今般林口の附近へ山羊飼育専門の移民を入植せしむる目的を以て試験場を經營させることにした。

六、移民地の文化施設

移民地に於ける文化施設の問題も極めて重大である。文化施設といふのは神社を建立するとか、學校を建設するとか、病院を經營するとかいふやうなことであるが就中、學校を建設するといふことが移民地に於て最も大きな頭痛の種となつてゐるやうである。何と云へば日本人は若干数集合するに必らず子供の教育に心配がある。移民地で

S 1.3.3.0-1

6171

920

S 1.3.3.0-1

6170 919

0498

も學校を建てて教育の任に當つてゐるが、何分にも非常を繁殖率で、家族を呼寄せ、家庭を持つてゐるにドシ、子供が出来ゐる。目下のところでは児童の数は少いけれども、これが五年、七年と先きになると大變な数になるのは知れたことで、さうなると學校の増築、新築と云ふことが容易ならぬ問題となる。

病院に就ては移民地には餘り多くの病人は居らない、みんち中々の健康体であるが、病院は病人のためよりも多くは出産のために必要なのである。ところが移民の中には大体一つの集團に一人や二人の産婆の経験のあるものとか、看護婦の経験のあるものが居るので、其の方は何とか間に合つて行くが、さて醫者が少い。移民地へ出かけるやうといひやうな醫者が余り居らぬのか誠に困る。東京あたりには随分と門前雀羅を張つてゐる醫者も居るやうだが此数が中々移民地へは行かぬ、之れは何とか政府でも考へねばならぬことである。相當な醫者では行かない、殊に醫學博士といひ稱号がいけぬ、中に

S 1.3.3.0-1 6172 921 0499

は頗る怪しげな博士も居るのだが、それでも東京や京都の帝大を出た醫者は何とかして博士にならうといひので都から離れなからない。かうも博士ほど世に害毒を流すものはないと思ふ。そこで別に専門學校かどこかへ學生を委託して、そこで修業したものを移民地へ送るやうにしたらどうかと思ふ。

七、共同産業施設

共同産業の施設も色々やつてゐる。購買組合とか消費組合とかいひやうなものを組織して、消費方面の協同戦線を張つてゐるが、それと同時に又販賣組合を組織して農作物の共同販賣に當らしてゐる。或は小麦を小麦のまま賣らずに、製粉して販賣するといひ遣り方で、村は村の自治に委せてゐる。集團移民の中は政府の指導下に一切の事をやるが、個人經營になつてしまふは自治でやらせる仕

S 1.3.3.0-1 922 6173

組である。

日本の農民は非常に正直であるから、もしすると狡猾な満人商人（支那人商人）に欺かれ、折角苦心の農作物を安く買はれるといふ心配がある。曾て哈爾濱郊外にある天理教信者の経営してゐる天理村で、遙々大和の國から西瓜の種を取り寄せて之れを植付け、大変な利益を擧げたことがある。さてその翌年もまた西瓜を蒔いたところが早くもその有利なるを聞き知つた満洲農民（支那人）が一齊に西瓜を栽培して市場へ送り出したため、天理村の西瓜は全く賣れ口を失つて非常な失敗を演じたといふやうな話を聞いた。

しかし日本移民側でも此の頃では決してそんな目に會はぬやうに注意して、生産物は成るべく加工してから市場へ出す方法をとりやうになつた。かうなると満人との競争にもならず、假りに原料品のままで賣る場合にしても、日本農民は大連市場の雜穀相場をラヂオで聴取し、「今日は何かいくら」といふ風に其の日の相場を呑込んで

みて満人商人に安くは賣らない。そんなことから今では逆に満人商人の方が日本農民側に其の日の値段を聴きに來るといふ場合になつてゐる。だから叩き値で買はれるといふ心配はないやうである。

ハ、土地買収の合理性

それから土地買収の問題に就て一言觸れて見たい。新京あたりへ行くと、日本人が満人の土地を安く取り上げて満人を追ひのけるとか、満人の土地を無理に買上げるといふやうな噂が盛んにある。然るに現地へ行つて見ると曰満人間の感情は非常に圓滑でよく融合してゐるのだ。へんな噂は皆新京だけで聞くとであつた。満人の土地を買収するにしても、それは滿拓公社が之に當るのであるし、價格を決めるものは日滿拓植委員會である。此の拓殖委員會には関東軍の參謀長も居れば満人有力者も入つてゐる。而かも各省には招墾

S 1.3.3.0-1 924 6175

S 1.3.3.0-1 6174 923 0500

委員会といふものがあつて、地方々々の實情に即した地價をきめ、更に其の下には縣の招墾委員會といふものがあつて、其の縣下に於て妥當とする價格を決めるといふことになつてゐるから不當な値段などきめられぬものでない。

實際地方の大地主といふは不在地主で大抵は新京に居住する旧支那時代の官吏が多い。この連中は自分の土地を見ることがない位なのに、高いとか安いとか云つて陳情に来るのである。果して日本側の買収する價格が、それほど常人の不平を買つてゐるかどうかを現地で確かめやうと思ひ、三江省長の干渉に會つた時にその話をしたら省長のいふには可不當に安いところか、こんな高い値があるものでない、もと／＼この土地はあの不在地主等が只で取つたやうな土地ですからねと云つてゐた。省長自身はもと地方的小軍閥をしてゐる男が、色々聞いて見ると、賣り出す地券の中には省長君自体の名義のものはいくらでも出て来たといふ。地主自らの建康だ

から、右の話はおそろしく眞実であらう。
何しろ馬賊の横行する奥地未開の土地であつたものが、今では治安が維持され、鐵道、道路が出来て来た。之れからこの土地は相當物を云ひやうになるといひので樂しみにしてゐるのを買はれるものだから、新京あたりにのうくら生活してゐる地主連が、將來の樂しみがなくなつたといひわけが／＼不平を云ひまのである。國家將來のために行はれる國策をそれ等少數の有閑階級の不平で蹶とれてはたまつたものでない。之れは問題にするに足りない話であることと、はつきり認識して来た。

九、青少年移民

拓務省の移民計画のうちで特に推奨せねばならぬのは青少年移民の問題である。

S 1.3.3.0-1 926 6177

S 1.3.3.0-1

6176 925

0501

青少年移民といふことは、將來滿洲國に於ける日本民族の中堅となるべきもの、而して又、將來一旦事ある場合に、充分奮闘を遂げ得る後顧の憂なからしむるものを作るといふ意味合から計画したもので、昨年秋が拓務省へ行つてから青少年訓練所といふものをつつた。之は本年度から正式に実行に着手したものである。

青少年移民といふのは十六才から十九才までの青少年で各府縣に於て選抜する。勿論身体頑健、意志強固が第一條件で、採用されるものは茨城縣東茨城郡下中妻村内原の訓練所（所長加藤寛治）に於て約二ヶ月間の訓練を経た上で渡滿し、滿洲の訓練所に於て約二ヶ月間實地訓練を施し、適齡者は現地で入營せしめ、除隊後は集團移民として十町歩を與へるのである。

本年は第一年度であつて三万人の青少年移民を送ることとし、五月初旬約五千人を送り、次で六月に七千人を送り出し、目下第三回目の七千人を訓練中で八月には送り出す手筈になつてゐる。本年送つた

ものは龍江省嫩江訓練所、濱江省鐵驪訓練所、三江省勃利訓練所及び牡丹江省沙蘭鎮訓練所、黑河省遜吳訓練所へそれ／＼分割した。訓練所はこの外哈爾濱郊外に中央訓練所を設置してある。

青少年達は何れも健康勝れてゐたが嫩江と遜吳へ行つたものは折悪しく吹雪に罹されたのと、水が惡かつたために赤痢にかゝつたものがあつたり、それに本年は第一回目であつたため健康診断に多少杜撰なところがあつたのか、肺や肋膜炎の病を持つものかあつたりして、合計二十名ばかり送還した。こんな事は第二回目からは繰返すことはあるまいと思ふ。

一〇、移民地と治安

滿洲國の治安であるが、之れは最近匪賊の數も大變減少した。また三江省の依蘭縣の西方に四、五千人、東遼道の三角地帯に千五百人

S 1.3.3.0-1 928 6179

S 1.3.3.0-1

6178

0502

927

位居るやうだ。しかし移民地は大した被害もないほどに落ちた。尤も先般青少年移民の勃利訓練所に大十名ばかりの匪賊が襲撃して来た。之れに對して少年達はどんな態度をとつたかといふに、彼等は内地訓練所では二箇月間十人に一人位鐵砲を持たせ、他のものには棒切れを持たして萬一の場合の訓練を受けただけであるが、滿洲へ行つてからは一人に一挺づゝの鐵砲を持たせてあつた。之れが初めて本物の匪賊に襲はれたのだが少しも騒がなかつた。極めて沉着な態度を以て約一時間ほど防戦に努め、兎事に匪賊を撃退したといふことであつた。日本人の少年はやはり強い、頼みしいものではないか感を抱かされた次第である。

この話を外の訓練所へ行つた時に話したら、その青少年達は異口同音に「私の所へも匪賊が出て来ないかなア」と元氣よく云つてゐた。林口でも鐵道自警團で人員が不足だから應援を頼むと、青少年移民の方へ申込みがあつた。そこで十カオヒ二十オのものを百人は

かりで自警團を形成し、鐵道自警村を立派に警護してゐるが、時には数残匪が出て来るけれども驚ろきもせず、堂々其の任務についてゐるといふ。晝は晝で耕作に従事し、夜は警護の大任についてゐる。けなげさ、治安上に於ては青少年移民は少しも心配ない、寧ろ頼もしい位だといふことを如実に示して呉れてゐるわけである。

二、日滿農民は相互依存

先住農民と日本移民との融和問題も一般に心配されてゐたところであるが、現地へ行つて見ると全く豫想外で、寧ろ先住農民達は日本移民に頼つてやつて來てゐる位、日本移民も亦何かの時は先住農民によつて手不足を補ひといふわけで相互依存の状況にある。日滿人か仲が悪いなどといふことは毛頭ない。五六年前に起つた土竜山事件のやうなことを考へると今日ではおおよそ遠つた状態にあること

S 1.3.3.0-1 9306181

S 1.3.3.0-1 6180 929 0503

を見せられる。

密山の方面は前人未踏の地だからこの問題は起らぬ。が先住農民の居る地方では日本移民の方でもなるべく満人を原住地に置いて欲しい、何と云へば草取りの時や取入れの場合など臨時に雇入れで手不足を補いし、貨物の運搬などか、作物の移動などかの場合なども、賃金の安い満人が近くに住んでゐる方が便利だといふので、近頃は平穩に満人が我が移民園の中に居住してゐる有様である。

二、朝鮮人移民の處置に就て

茲は私共の豫測のつかない問題の一つである。それは朝鮮人の移民問題である。

日滿人間は以上のやうに何とでも融和して行くが、鮮滿兩移民といふものはどうも行くかない宿命的な關係にあるやうであつて、之

三

れを放任して置いては由々敷大事であらうが、さりとて即座にどう解決するといふ目途も立たない。長い目で見守つてゐるより外ないのではあるまいか。

三

朝鮮人の滿洲移住といふことは古い歴史を持つ。現に間島省や牡丹江省に在住する朝鮮人は日韓合併の以前から入植したもので、中には日本の總督政を好まぬものも居れば、また漠然と渡満したものもあり、その來るところ相當に古い、而かも朝鮮人は他人の土地であらうが何でも構はず、空いてゐる土地さへ見付ければ勝手に其處へ水田をつくる。水を引いても水のはけ口など考へないから、彼等が水田をつくと、其の下の方の土地は畑も何もめぢや／＼に水浸しになるので、滿洲人にはこの無作法が堪へられぬといふのである。これが万宝山事件を起した一原因であつたかも知れない。だから滿洲人の方では朝鮮人を理窟なしに嫌ひ、どうもここに一つの矛盾があるのではないかと思はれる節がある。それは日本と滿洲

S 1.3.3.0-1

932

6183

S 1.3.3.0-1 6182

931

0504

は一体であり、不可分關係だといふ。然るに滿洲國は五族協和だといふ。日本は曰滿洲を區別せず一体同心であり不可分の肉身關係だといふのに、滿洲は五族といふ對立民族を認めて之れが協和を期するといふのである。そこに矛盾があるのであるまいか。

この意識の現はれは、滿洲人の朝鮮人觀となる。即ち滿洲國人は云ふ。『朝鮮人は日本人に征服された民族である。日本人は優秀なる民族であるから滿洲國はこれと一体となつて征服された朝鮮人は我々より一段下の民族であつて、それと一体となるのは考へられぬ、五族といつても曰滿漢は上部に位し、蒙鮮は下部に位す』と云つた理窟をとめるのである。

朝鮮人は之れに對して『俺達朝鮮人は現在日本人である。而かも日本は俺達朝鮮人に對して、張作霖時代には瀕りと前線へ發展せよと勸めて滿洲移住を慫慂しながら、滿洲國が出来たから今度は遣つた考を持つて云ひのはどういふわけか』といふのである。

三

此の問題は單なる行政上の處置だけでは解決出来ないものではあるまいか。牡丹江へ行つて見ると、此の問題について日系官吏の中に議論が二つに分れてゐる。朝鮮人を好むものと比較的朝鮮人を好まないものとが喧嘩をしてゐる。否曰系官吏ばかりではない。日本の現役將校の中で朝鮮人最良と朝鮮人を最良にしないものとかはつきりと異なる意見を持つてゐる。しかし曰滿將來のために考へるならば、朝鮮人の取扱方、教育、文化の方面について餘程慎重に考慮すべきものがあるのではあるまいか。

一三、移民計画への一示唆

最後に滿洲移民の一般的計画に就て將來考究を要するものに就て一言したい。

いとの第一は將來の移民團長を如何にして養成するかといふこと

S 1.3.3.0-1 934 6185

S 1.3.3.0-1 6184 933 0505

である。本年は七千五百人の入植に對して二十数名の團長を送つたのだから何と行つたものの、將來移民の数が増加に伴つて相當数の團長が必要となる。ところで團長となる者は一應の農業知識も必要だし經濟上の頭もなければならぬ、之れに相當の統制力もあつて後には村長の仕事もやらねばならず、中々難かしい。やれ生れた子供の名前をつけるとか夫婦喧嘩の取合しまでやる用務にして迫力ある人物を如何にして養成するか、之れは國家として慎重に研究せねばならぬ問題であらう。

(イ) 次は移民が家族を呼寄せらるまで郷里に残された家族の生活を心配してやることである。今までは少數であるから何とか郷里の方でも地方々々で方法を考究したが、今後多數の移民が出て行つて、而かも家族を呼び寄せるまでには二ヶ年を要するのである。この間家族を如何にして養つてやるかの問題である。

(ロ) 第五次移民は本年家族を呼び寄せることになつてゐるが、之れ

に就て厄介な問題といひのは、この二ヶ年の間に移民の殆ど全部が忌はしい病氣に罹つてゐたことを發見したのである。二ヶ年間家族なしに生活する移民に對する社會施設の問題は最も面倒なものとして、しかし何と考へてやらねばならぬ問題である。

(ハ) 教育と医師の問題は最も述べたところの如くであるが、之れは國家として特に考究すべき緊急事であらうと思ひ。

(ニ) 農業上の研究を一層濃密にし、移民の業績向上に不斷の努力を拂ひでき方法を案出することである。

以上は大體心付いたまゝを述べた次第であつて、國家百年の大計の根幹をなす移民問題は國民の均しく愚鈍に附すべからざる事柄だと思ひ——(以下略)——

S 1.3.3.0-1 936 6187

S 1.3.3.0-1 6186 935 0506

滿鐵副總裁大村卓一氏の所述を基礎としたる
滿鐵の滿洲及北・中支開發の使命に就て

(協會幹事手記)

一 大滿鐵、それは精神的結合

滿鐵の鐵道延長は現在一萬キロを算して居るか、事変前は大千キロであつたから、事変中に四千キロを建設した譯であつて、其のスピードは世界的になつた。此等を形而下的に見ても甚だ誇るべき事に属すると思ひが、併し我々の時に見て戴きたいのは其の精神的方面である。實際滿支に於ける滿鐵の仕事の跡を見れば、日本人は、
三 はこそ爲し得たとの感を深くするものであつて、協力一致、嘗々

S 1.3.3.0-1 6188 937 0507

して難業に當りつゝある我等の青年に對しては眞に感謝措く能はざるものがあるのである。

現在滿洲に於ては其の密度から見て朝鮮の二分の一、日本本土の三分の一の鐵道が敷かれて居るか、將來は更に大なる密度に到らんとして居る。顧れば三四年前、滿鐵が鐵道敷設につき朝鮮各方面に投資方を懇談した時の如きは、「そんな事は廣野に金を棄てるやうなものだ」と太いので諒解を得る事が困難であつたのみか散々油を搾られたものである。當時専門家が并じた如く滿洲殊に北滿の鐵道は戰略的重要意義を持つ國防鐵道であつて、これはどうしても敷設しなければならぬ性質を持つて居る。之を經濟化する。即ち採算が立つか立たぬかと云ひやうな理屈はあとでつけるのである。幸にして計画は着々として進展し、今日の狀態を見るに至つたのであるが、これが事志と違ひ鐵道計画かあの當時の儘であつたら果してどうであつたか。鮎川君來ると雖も如何ともなし得なかつたであらう。

S 1.3.3.0-1 938 6189

鮎川君は鐵生産何百萬噸ハルヲ生産何十萬噸、以て日本を救いと云つて立上つたが、その立上り得たのは抑も誰のお蔭か。全く鐵道あればこそであらうと思ふ。(尚ほ滿洲の新鐵道の中には一般に知らるゝもの以外の線が既に出来上り、營業を開始して居るものがあるが、軍の許可がない爲め未發表のものも少許ある)。

二、軍用鐵道の經濟化

右申す通り滿洲の鐵道は抑も國防用、作戰用であるが、其の經濟的價値は勿論絶大であつて、資源開發によつて五六年の後には十分ペイするのであるから専門家として投資價値を高唱するのは當然の事である。然も其の投資は五六年後にはリターンするのである。會社も苦しいのは五六年で、殊に此の十二年度十三年度は遣り繰りに苦痛を感じるが、これを越せばあとは誠に坦々たるものである。

S 1.3.3.0-1 6190 939 0508

時世は我々を恵んだ。我々は五箇年計画を續けたが、其の五年経たずして立派な成績を擧げて居る。奶子山鉄礦の如き、鐵道が行かぬうちに既に掘つて居る有様で、軍用鐵道の經濟化は期せずして成る人として居る。かようなうまい事はない。産業は本来鐵道を待つて行動するのであるが、且に其の逆である。鐵道は大動脈であるといふが、此の大動脈が到るのに對して血球を用意して居て呉れるのである。これは偏へに軍のお蔭であつて、此の席上には滿洲と最も縁故の深い西尾中将閣下も居られるが、此際軍に對して感謝の意を表したいと思ふ。

三、國鐵に對する私設電車

目下北支那には四千キロから五千キロの鐵道が敷設されて居る。既に地支開發會社も出来、産業に關しては此の新機關が受持ち、滿

S 1.3.3.0-1 9406191

鐵は之と並んで大陸の交通機關を預かるといふ事になつた。即ち我々は「滿鐵」に云ひが如き考を棄て、北支は勿論中支の鐵道をも同じ東亞の國防鐵道であるとの政治的意味を以て見て居る。北支は滿洲國の延長も同然である。但し中支には南京上海間の、滬寧鐵道を初め上海、寧波間の滬杭甬鐵道、南昌九江間の南潯鐵道其他がある。此等は支那の、或は外國の資本によつて成つたものであるが、併し地方鐵道は必ずしも日本の資金たるを要しない。在滿支鐵道は國防を主として居るのであるから其の國防上の主要鐵道以外の地方鐵道は一種の電車道と考へればよい。要するに此等の鐵道に就ては彼等と同じやうな効果を擧げんことを顧慮する要はなく、之を強て保護する必要もない。地方の國防鐵道を國鐵と見、その他の諸鐵道を私設鐵道と見ればよいのである。

實は斯様な事は三十年前なら到底口には出来なかつた。否、二十五年、十五年前でも難かしかつたであらう。即日本人は意氣地がない。

S 1.3.3.0-1

6192 941

0509

協力して事をやる事が出来ぬ、よしやつても副總裁などにせよ、は忽ち愉快に仕事をやらぬ、正しか副とか云ふ事に因はれる。之を個人個人に見てもビジネスでは太刀打ち出来ず共学は不能であるといふ云つたやうな評をされて居り、事實また其の傾きも多分にあつたやうであつた。然るに今日はどうか、今は人も物も日本から外國へ行く。現にシヤムやペルシヤへは日本から機關車が行つて居り、鐵道専門家も教官として赴いて居る。此等の實情から現在我鐵道エキスパートの鼻息が荒いのは固より故あることである。

四 對滿支事業の一元化

北支中支の開發經營に就ては既に國策會社も成立し資金關係は之によつて統制せられるのであるが、滿鐵も國策機關に隣れる交通會社として運營に當るべきである。實は滿鐵は中々つらい立場に居

S 1.3.3.0-1 942

6193

る。第一、関東軍と云ふものがある。方面軍と云ふものがある。こちらを立てればこちらが——と云ふ譯がないでもない、そこはなかに「リケイト」である。中には満鐵は滿洲をへやつて居ればよい、何ぞ苦んで支那にまで、と云ふ論がある。或る程満鐵が其の名の通り滿洲をへやつて居れば、それは違ひない。併し大満鐵の使命を顧み、國家本位に考へれば、やるべきものは何としてやらなければならぬ。と同時にやらなくともよいものなら頭を下げて苦んで居るには及ばない。要は國家的見地から見ても、窮屈なる解釋をせず、甲の有する材料も乙の持つ人も之を能率的に使いにあらう。それには一つの支配の下に全機能が動く、と云ふ事が肝要である。「満鐵は滿洲に居る」では満鐵に取つては、余り知らぬが國家として損である。兎角現今は物の世の中である。一方に事がある時、一方に有するストックや器材を他に融通し、共通の立場で之に當れば其の効果著大なることと云ふ返りあるまい。要するに支那の開発に就いて、資金關係に於

S 1.3.3.0-1 6194⁹⁴³ 0510

ては開發會社に於て之を押へ、運営に於ては満鐵に當ると云ふ事が最も至當である。かくして對滿支事業の一元化を實現したいと思ふ次第である。

五、大陸運輸と海上輸送の統合

鐵道運営に於て最も大切な事は終端港の経営である。満鐵は五箇年計画により現時の四千万噸の貨物輸送を倍加して八千万噸としやうとして居るが、それは此の貨物を吞吐する港の問題が直に起つて来る。北支南滿方面の港としては勿論大連港があるが、此の港は示來輸出港であつて輸入は一割五分位になつて居つたところ最近輸入が増大し殊に事交後は内地から送らるゝものが出るものを押へて居る有様で、輸出港の實は失はれんとして居る。支那海方面には此外遼東港には營口、壺盧島があり鴨綠江口には安東もあり、日本

S 1.3.3.0-1 944 6195

海には羅津港を中心として青津、雄基の諸港があるのは申し上げる迄もない。併し何分にも輸送の力が十分でない。即ち滿洲生産は増大しても船なく港少き現状では徒らに船腹難を啣つのみで、其の結果か否か、鐵道運賃は下るもの船賃は上るものと云ふ一見甚だ奇なる、実は甚だ困つた現象を呈して居るのが現時の常例である。要するに大陸運輸と海上輸送との綜合的統制を缺いて居るのである。船賃を上げる爲めに鐵道運賃を下げるなほ、この阿呆らしい事はない。鐵道の状態は良好だが北支那海、日本海の現状をどうするか、此際大陸海洋一貫せる航運の統制が第一である。かゝる点に未だく聞發の餘地が存するのであつて所謂生産貢獻の前途は遠慮であると申さねばならぬ。切に諸君の御考慮を乞ひたいと思ふ。

六、青少年養成の試み

三

最後に「資材に對する人」に就て申上げたい。申す迄もなく「人」は如何なる事業に就ても第一の要素であるが、私は支那に於て事をなすには支那人の間に日本人が一割乃至二割入つて居ることが必要ではないかと思ふ。独逸人經營の鐵道では独逸人が八十人か九十人でやつて居るものが日本人の手に移るや日本人が九百何人で之をやつたと云ふ事がある。これに就てかれこれ云ふのではないが、今申す通り支那人の中に日本人が一割か二割入つて之れが支那人を使い、また使はれて事實に於て日本人が鐵道を把握して行くのか一番であらうと思ふ。これには勿論理窟よりも實行の点が肝腎であるが、實を云ふと日本人は日本人同志の間では甘く行くが、他とのコオペレートは困難である。他と協力し之を心服させてやつて行く事は相當難事であるが、我々の同僚は其の確信を持つて、英や佛がやるのではない、日本がやるのだと云ふ確信を持つて居る。これには人間の養成が何より大事である。此の意味から、滿

S 1.3.3.0-1 946 6197

S 1.3.3.0-1

6196⁹⁴⁵

0511

鐵では昨年七月以來人物養成の新しい方針を立てて之を実行して居る。これは現地に働く者は三十歳四十歳の世帯持ちでは駄目だといふので、少年を仕立て、之に當りせる事にしたのである。此の少年に實地についてホイントメンから石炭焚きの事まで覚えさせるのだから、之には先づ酷暑だとか最寒だとかそんな考を取り去らねばならぬ。零度以下三十度の酷暑だとか驚かず、これか我々の氣候だといふ風に恰も我々が南京中に免疫になるやうに、其の少年が全く現地にアダプトし、支那語を自由に操つて支那人に接すると云ふやうにした。即ち滿鐵は現地の経験により、地支及び中支にも向くべき人物を作るため十分なる彈力餘裕を持つて、別に頼まれた譯ではないが、松岡總裁以下熱心に、人の養成に當つてゐる。現在仕立てゝ居る青少年は十六歳から十八歳まで七千人で、學問は第二に、先づ實地の修得に重きを置き、三年計画の下に支那人の子と竹馬の友になつてやつて行く。事業をなすには一人も人、二人も人である。人の養成

ほと肝腎なものはない。滿鐵はムクな人間を養つて居るのだといふか、其の遠大の計を買つて頂きたいのである。——（以下略）——

S 1.3.3.0-1 948 6199 - 40513

S 1.3.3.0-1 947 6198 0512